

高等教育中途退学が就業形態や賃金に与える影響 —ベイジアンネットワークを用いた分析—

慶應義塾大学大学院 理工学研究科 池本 駿
慶應義塾大学 理工学部 鈴木 秀男

1. はじめに

文部科学省が2014年に全国公私立大学・短期大学・専門学校約1200校に対して行った調査によると、日本において高等教育中退者は約8万人で全体の2.6%にあたる。高等教育中退の要因分析に関し、心理学・教育学的観点から研究は行われているものの、高等教育中退後の就業形態や賃金等のキャリアパスに関して個人レベルでの分析は焦点があてられてきていないのが現状である。また、経済学的観点から高等教育卒業者と高卒労働者の就業形態や賃金の比較研究は多数蓄積されているが高等教育中退者に着目した研究は非常に少ない。

本研究では、20代から40代の高等教育中退者と高卒者に焦点を当てたWebアンケートを2018年1月に行い、調査時点で就業している323サンプルを集めた。サンプルの内訳を表1に示す。計30の質問項目は初職の就業形態（正規就業もしくは非正規就業）・現職の就業形態・2017年度年収に加え、高校時代・高等教育時代・家庭背景等の情報を含んでいる。

表1：高等教育中退者と高卒者の賃金に関する調査サンプルの内訳

最終学歴	N	割合	年代	N	割合
高等学校卒業	117	36.2%	20代	35	10.8%
短期大学・専門学校中退	100	31.0%	30代	92	28.5%
大学中退	106	32.8%	40代	196	60.7%
合計	323	100%	合計	323	100%

2. 分析手法

説明変数と目的変数との間のみの依存関係を仮定した通常の重回帰分析に加え、非循環有向グラフで条件付確率を用いたベイジアンネットワークによる分析を行う。マルコフ性を利用して本人の能力や最終学歴、家庭環境に関する各確率変数が就業形態や賃金に与える影響をみていく。

3. 分析結果

ベイジアンネットワーク分析により、高等教育中途退学者は高卒者と比較して初職の就業形態で非正規就業となる確率が高く、そのことが影響してその後のキャリアも非正規就業から抜け出せずに賃金も高卒労働者よりも低くなることが明らかとなった。

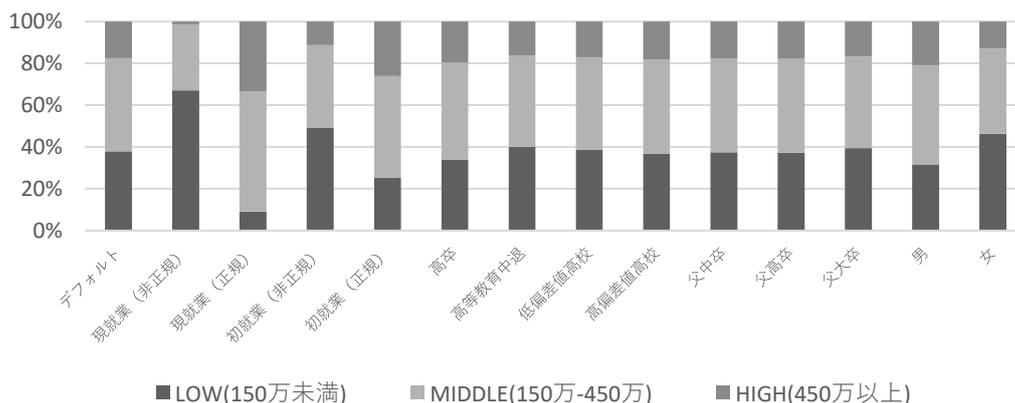


図1：Bayesian Network による年収分布

参考文献

- [1] 文部科学省 (2014) 「学生の中途退学や休学等の状況について」
- [2] Jie Cheng, Russell Greiner, Jonathan Kelly, David Bell, Weiru Liu (2002), Learning Bayesian networks from data: An information-theory based approach, *Artificial Intelligence*, Volume 137, Issues 1-2, May 2002, pp. 43-90.